

乳幼児期から小学校への連続した学び～津市架け橋プログラムの実施に向けて～

これまでの幼小連携の取組からの課題

- 多くの幼稚園及び小学校が、幼小連携の在り方に課題意識を持っている。また、各校・園における連携の必要性に関する意識の差があったり、連携の対象となる校・園がはっきりしていなかったりなどの状況がある。
- 各校区における幼小連携が、行事の交流や就学前の引継ぎ等にとどまり、資質・能力をつなぐカリキュラムの編成・実施が行われていない場合が多い。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の理解が十分でなく、到達目標と誤解され、連携の手がかりとして十分機能していない。また、幼児教育施設が多様な施設類型に分かれていることから、幼児教育施設間で連携を図りながら共通理念をもって、小学校へ幼児期の育ちを発信していくことが必要である。

津市架け橋プログラムがめざすもの

- 幼児期から児童期のそれぞれの発達の特長や連続性を見通しつつ、5歳児と小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、幼児教育と小学校教育の関係者が連携しながら、それぞれのカリキュラム・教育方法の充実・改善にあたる。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに幼児教育と小学校教育の関係者による子どもの姿、育ち、学びについての話し合いを充実させ、相互理解を図るとともに、それぞれの教育方法の充実・改善につなげる。
- 架け橋期における環境の構成や子どもへの関わり方に関する工夫等を見える化し、家庭や地域にも発信する。

【令和4年度】カリキュラムの開発

津市架け橋期カリキュラム在り方検討委員会

- 相互の教育の内容や方法に関する理解の改善・発展
 - 園・小学校と関係機関及び関係団体との連携
 - 入学当初の小学校1年生の実態把握アンケート実施
- ### 津市架け橋期カリキュラム検討ワーキング会議

- 実践・交流・協議
- カリキュラムの作成

【令和5年度】カリキュラムの検証

- モデル小学校区における津市架け橋期カリキュラムの実践・検証
- モデル小学校区の取組実践報告会の実施
- 津市架け橋期カリキュラムの見直し・完成

【令和6年度】カリキュラムの実施

- 小学校区において、架け橋期カリキュラムを作成・実践
- 実践交流会を実施



小学校教育

幼児教育

3歳未満の保育

認知能力
非認知能力

非認知能力の基礎

愛着形成

各教科等の学習内容の系統的な学び

- ・自覚的な学び
- ・各教科等の学習内容を系統的に学ぶ教育課程
- ・到達目標「～できるようにする」等
- ・教科カリキュラム（学問の体系を重視）
- ・学級、学年等
- ・時間割に沿った一日の流れ



接続期

遊びや生活を通じた総合的な学び

- ・学びの芽生え
- ・5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）
- ・方向目標「～を味わう」「～を感じる」等
- ・経験カリキュラム（生活や経験を重視）
- ・個人、友達、小集団
- ・子どもの生活のリズムに合わせた1日の流れ



スタート期

アプローチ期

自己を発揮し、主体的に新しい学校生活を創り出す



生涯にわたる人格形成にとって極めて重要な時期

- ・十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満ちし、生命の保持及び情緒の安定を図ること
- ・非認知能力の基礎が乳幼児期に育つ
- ・この時期の保育には、愛着行動、基本的信頼感、自己肯定感の育ちを意識した展開が不可欠

遊びや生活の中で出会う興味や関心に沿ったICT機器の活用

主体的な活動の中で「見る」「調べる」「共有する」といった活動の広がり

- 教員と一緒にICT機器を活用して、自分たちの思いの実現のために、試行錯誤したり、想像を膨らませたりしながら、役割や手順、時には上手くいかない経験もしながら解決策を模索するなど、生活の中で**思考力の芽生え**が育まれる。
- 個人の体験で留まらず、集団とのやり取りの中で、情報収集、対話、探求心を生み出し、体験と体験をつなぐことで、**学びに向かう力**につながる。

小学校での活動

各教科等の学習内容の系統的な学び タブレット端末を活用した個別最適化・協働的な学び



「春を見つけよう！」
生活科の時間に校庭に出て、春を感じながら自分で見つけた春（花や虫等）を、一人一台タブレット端末で写真に撮って、友達に紹介する活動

幼稚園での活動

遊びや生活を通じた総合的な学び ICT機器を活用した幼児の豊かな体験



「カメはどんなところに住みたいのかな？」
カメに愛着を持ち、餌やりなどの世話をする中で、カメが冬眠するところを探す姿
文部科学省「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの参考資料より